

滋賀県庁職員（会計年度職員含む）向け不登校に関するヒアリング概要

1. 実施期間 令和6年8月2日～8月27日
2. ヒアリング人数 15名
(不登校経験者 5名、保護者 9名、その他(保健師、元教諭) 2名)
※1名、経験者かつ保護者

3. 意見概要

(1) 不安・負担に感じたこと

○負担に感じること

- ・ いじめの被害者が退学を余儀なくさせられること。
- ・ 通信、定時制高校の情報がなく全て自分で情報収集する必要があったこと。
- ・ 進学に向け、学業の遅れを取り戻すために予備校を利用していたが、費用負担が大きかった。
- ・ 相談窓口、教育支援センター、学習支援、進路等に関する情報をすべて自分たちで情報収集しないといけないこと。
- ・ 適応指導教室の入所を希望したが、定員が一杯で利用できず、親が学習の指導、遊び相手等休みなく子どもの対応をしないといけない。
- ・ 昼食をつくること。

○不安に感じること

- ・ 学業の遅れ。
- ・ 仕事との両立。
- ・ 不登校になり友だちとのつながりが希薄になったこと。
- ・ 集団生活で身につける協調性が身に着けられないこと。
- ・ 校内教育支援センターの利用申請をしてもすぐに利用できなかったり、相談しても寄り添った回答がなかったり、情報提供がない等、学校の対応が他人事のように感じる。
- ・ 母子ともに孤独を感じているが、他の親とつながりを持つ機会が少ない。
- ・ 医療機関の受診予約がなかなか取れない。予約が取れても半年先となる。また、受診まで不安を抱えることとなるので何かしらの助言等が欲しい。
- ・ いつまで続くか分からない、出口が見えない不安。こうしたらよくなるという答えがないこと。

(2) 魅力ある学校

- ・フリーアクセス（本人が授業を受ける教室を選択できるシステム）を導入すれば、クラス替えをしなくても苦手な友人と距離を取ることができる。
- ・自由に学年関係なく自分で授業を選択し、単位取得できる学校。
- ・暴力のない学校
- ・子どもと同じ目線で理解してくれる大人がいる学校。
- ・子どもの変化に気づき、適度な距離感で接してくれる先生がいて欲しい。
- ・特性のある子どもの理解について理解をした教師が増え、適当な合理的配慮を望む。

(3) 求める公的支援

- ・全日制高校に進学できない人に向け、大学進学に向けた情報提供
- ・フリースクール等民間施設利用にかかる金銭補助
- ・学校等における学業の遅れに対する学習支援
- ・学業の遅れに対する金銭補助
- ・学校内での不登校、行き渋りの子どもを持つ保護者交流の機会の提供
- ・県・市町 HP に不登校専門のサイトを設ける
- ・不登校の状況に応じた相談先、進路、医療機関（思春期外来）、不登校経験者の経験談等がまとまった情報を HP や冊子等で周知
- ・精神科はマイナスイメージが強いため、受診しにくいいため、そのイメージを払拭して欲しい。
- ・社会に対し誰でも不登校になることの周知
- ・学校において、生徒に対する個人面談を行う機会を増やす。子どもとの信頼関係が構築されやすくなり、SOS をキャッチしやすくなる。
- ・高校の不登校の子どもが利用できるフリースクール等民間施設が少ないため、高校生の不登校の子どもが集まり、友だちがつかれる場があるといい。

(4) その他経験者からの意見

- ・子ども自身が学校に行けないことに対する自責の念が強い。
- ・学校に行きづらさを感じた時、保護者、学校の先生等周囲の大人の対応が重要となる。
- ・周囲は、本人が落ち込んでいることを温かく受け止めることが大事。
- ・本人のこだわり、特性を包み込み安心させてあげることが前進の一步になる。
- ・家庭で相談できない人もいるので、家庭外で相談できる場は必須。